Title	巻頭のことば
Author(s)	山口，博
Citation	キリスト教と諸学 ： 論集, Volume29， 2015.3 : 1-2
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=5515
Rights	

聖学院学術情報発信システム ： SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

巻頭のことば

毎年三月になると、学校法人聖学院の諸学校・園は、卒業の時節を迎えます。

二〇一四年度も主なる神様に祝福された式が次々に挙行されました。三月七日の聖学院高等学校を皮切りに、一四日の聖学院大学・大学院、一九日の聖学院小学校まで、一〇校がそれぞれつつがなく終了し、私は六校の式に列席させていただきました。その感想を少し述べさせていただき、巻頭のことばとさせていただきます。

各校・園ともそれぞれの特色が濃く出ていました。共通していることは、学生・生徒・児童・園児たちが証書を手にしたときの表情です。この日を迎えられた喜びと感謝、そして満足感がひしひしと伝わってきました。勿論これからの生活が不安であると思っている人もおられたに違いありません。しかし、聖学院で培われた建学の精神による教育は、たとえて言うならば、質の良い葡萄酒のように、時とともに熟成されていくようです。卒業してから歳を経るごとに、各学校・園で行われていた礼拝を懐かしく思い、親の小言のように後から効いてくるのです。これは多くの卒業生の口から聞かされていることです。これまでの教育にご尽力されてきた教職員、ご家族、関係者のおひとりおひとりに敬意を表したいと思います。

さて、今年度の学校法人聖学院全体の卒業生総数は一二九二名（聖学院アトランタ国際学校を除く）と報告を受けています。この数字が多いと思うか少ないと思うかは、人それぞれかもしれません。しかし、一九〇三年（明治三六年）の聖学院神学校設立から数えるならば、何名の卒業生になるのでしょうか。決して少ない数字ではないはずです。なかには四代目の聖学院生が聖学院大学に籍をおいておられるのも事実です。卒業生に愛されてこそ存続

できるのが私立学校です。

少子高齢化が問題とされる昨今です。「選ぶ大学」から「選ばれる大学」へ、とも言われています。実際に学校を取り巻く環境は厳しさを増す一方です。しかし、聖学院は一〇〇年を越えて「変えてはならないもの」によって支えられてきました。それはキリスト教であり聖書です。ヨハネによる福音書一五章一六節、「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ」と主イエスは言われました。入学式や卒業式にたびたび用いられる聖句ですが、これは教職員も真摯に聞くべき言葉ではないでしょうか。貧しく弱い私どもですが、神に選ばれた群れであるに違いないからです。このことの真の意味がわかるならば、在校生、卒業生、そして教職員はひとつになれるはずです。そこから確かな希望を見いだすことができるのです。

三月は別名「夢見月」とも言われます。卒業証書を手にし、聖学院を巣立っていく後ろ姿を追いながら、彼らの一〇年、二〇年後を夢見ました。そして百余年前の教職員たちは何を夢見て卒業生を世に送ったのだろうか。そんなことを考えさせられた式でもありました。

聖学院キリスト教センター所長
山口　博